

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19106011	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	阮朝王宮の歴史的環境の復原－CG技術を活用した再現とGIS構築－	研究代表者 (所属・職)	中川 武（早稲田大学・理工学術院・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究の中心的課題である、阮朝王宮の宮殿建築のCGによる復原は、遺跡と現存する関連施設の実測調査や残された写真資料の解析から、10分の1模型を製作するという方法に基づいて、概ね、当初の計画に沿って研究が進展していると判断できる。また、これまでの研究過程で得られた、ベトナムの伝統的な住宅建築の設計方法や建築技術についての研究成果を学会論文や学位論文として公表している点も評価できる。</p> <p>当初の計画にある歴史的環境の復原を通じた総合政策、都市計画、複合電子メディアの技術移転、人材育成などの最終目標を達成するために、さらに力を入れて研究を推進して欲しい。成果の発表もさらに期待する。今後残された研究期間で、それらの分野の連携研究者との協力体制の強化を図り、当初の目的とする成果を挙げることを望まれる。</p> <p>また、この研究で開発されたCGによる文化財の復原技術については、その成果を相手国に技術移転するとともに、国際的な文化財データのアーカイブ技術への展開を視野に入れた取り組みを期待したい。</p>	

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	一方、研究進捗評価で触れられていない部分として、研究成果を英文論文として公表し、国際社会で認知されていくプロセスがある。研究成果の国際専門誌への投稿を進め、我が国の国際学術協力の姿を示すよう、大いに期待する。また、GISを整備していくとの研究目的があるが、GISに含まれる各種情報が、どのような言語で纏められているのかを明示する必要がある。